



子育てチャンネル

本物から学ぶ子供の姿を大切に

大雪山自然学校では、キトウシ森林公園のフィールドで、毎月1回、幼児、親子を対象として自然体験活動プログラムを開いています。「自然の中で過ごしたい」という家族が集い、1年を通して活動しています。大学や短大の実習生、社会人ボランティアさん、地域の方もスタッフとして加わり、「自然の中で過ごしたい」人の集うひとつのコミュニティとなっております。わたしたちスタッフはさまざまな家族の子育てのひとつときに係ることで、子育てしなれば体験できないような発見や感動の共有の機会をいただいています。いくつかがその感動をお伝えできたら、と思います。

子どもの目線で世界を見る
ある日、虫さがしをテーマにしました。お父さんの狙いはチョウでした。

虫取り網と籠を携えて

「虫取りに行こう！」とお父さんは息子を誘い続けるのですが、4歳の息子は木の葉の上をゆっくりと歩く小豆ほどの小さな虫に興味津々…。

そんな小さな虫を見たくて、他の子どもたちも集まってくる。意外なことにちびっ子の集まりでは、チョウやトンボよりも、1センチにも満たない小さな虫が人気を博しているのです。



大人にとっては見つけるのもひと苦労に思える虫ですが、幼児たちは大人よりもずっと低い目線で世界を見ています。一瞬にして飛び去るチョウよりも、ゆっくりと葉っぱの上を歩く虫の方がずっととらえやすい

存在です。

ミミズやワラジムシ、アリなど、子どもたちはより地面に近い場所で暮らす生き物で自分自身の目で発見します。私たち大人も、子どもたちにはその目線で世界を見ていたはずですが、すっかりその目線を忘れてしまっています。

子どもの目線で一緒に自然を見る時、想像以上の新しい発見があります。

本物から学ぶ方法

春の森探検プログラムの時、一人の男の子が飼育ケースを携えて森を歩いていました。木の根元を掘り起こしたところで、大量のワラジムシを発見。まずは、ほっこり突いてみます。

他のお友だちが捕まえて

いるところを見て安心したのが、本人もワラジムシをつぶさないようにつまんで飼育ケースに入れます。ワラジムシは触っても怖くないこと、体は案外柔らかいこと、手の平を歩くとこちよばしいこと、木の根元を掘り起こしたところに隠れていること、すべては本物を見て、触って確かめていきます。図鑑や書籍の内容が難しくても、テレビの解説が理解できなくても、幼児は本物から学んでいます。

いつの間にか、分からないことをすぐにインターネットでお伺いするようになってきた私たち大人ですが、子どもたちの本物から学ぶ姿を見る時、バーチャルではなくリアルな体験の重要性を感じさせられます。

NPO法人ねおす
大雪山自然学校

木村 恵 巳